

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	畿央大学(学部・学科等の課程)			設置者名	学校法人 冬木学園					
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況(平成30年度)				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
教育学部	現代教育学科	平成18年度	195人	幼稚園教諭一種免許状	令和元年度	215人	201人		77人	5人
				小学校教諭一種免許状	令和元年度				135人	79人
				中学校教諭一種免許状(英語)	令和元年度				10人	1人
				高等学校教諭一種免許状(英語)	令和元年度				10人	1人
				養護教諭一種免許状	令和元年度				26人	12人
				特別支援教諭一種免許状	平成26年度				25人	7人
健康科学部	看護医療学科	平成20年度	94人	養護教諭一種免許状	令和元年度	91人	5人	5人	1人	
	健康栄養学科	平成19年度	90人	栄養教諭一種免許状	令和元年度	98人	8人	8人	7人	
	人間環境デザイン学科	平成19年度	60人	中学校教諭一種免許状(家庭)	令和元年度	64人	4人		4人	0人
				高等学校教諭一種免許状(家庭)	令和元年度				4人	1人
入学定員合計			439人	合計		468人	218人	304人	114人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成31年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。									

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	畿央大学(研究科専攻等の課程)			設置者名	学校法人 冬木学園				
研究科・専攻等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況(平成30年度)			
研究科	専攻等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
教育学研究科	教育実践学専攻	平成26年度	10人	幼稚園教諭専修免許状	令和元年度	6人	3人		2人
				小学校教諭専修免許状	令和元年度			3人	
				養護教諭専修免許状	令和元年度				
入学定員合計			10人	合計		6人	3人	3人	2人
備考	<p>・「研究科・専攻等の名称等」欄は、平成31年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各研究科・専攻等の実人数、「個別」欄は各研究科・専攻等内の教職課程ごとの人数である。</p>								

## 教職課程実地視察機関に対する講評

実地視察日：令和元年12月2日（火曜日）

実地視察機関：畿央大学

## 【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等について、おおむね問題なく実施されているものの、教職課程認定基準等の観点からは是正すべき点も確認された。その点については速やかに是正するとともに、今後教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 貴学としての教員養成に対する理念・構想が明確化されており、それを具体化するための教育課程及び教員組織は整備されている。
- 教職課程に対する全学的な組織体制及び運用を一層充実させるように努めていただきたい。

## 2. 教育課程（教科及び教職に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 教育学部現代教育学科は、幼稚園及び小学校の教職課程の認定を受けているため、教職課程認定基準2（5）に定める「教員養成を主たる目的」とする学科等であることが前提である。当該学科等は教職課程認定審査の確認事項1（4）③に定めるとおり、卒業要件において免許状取得に係る科目が相当程度、必修として位置付けられていることが必要である。しかしながら、学則、履修規程において、当該科目のほとんどが選択科目として位置付けられていることが確認された。今後、「教員養成を主たる目的」とする学科等として、卒業要件における免許状取得に係る科目の履修の位置付けを見直すこと。
- 開放制により教員養成を行う場合、免許法上の最低修得単位数である20単位の「教科に関する専門的事項」の科目に加え、学科教育としての専門科目を履修することによって、各教科の専門性を高めていくことが重要である。その点、教育学部現代教育学科の中・高（英語）、及び健康科学部人間環境デザイン学科の中・高（家庭）について、当該課程の科目は全てが学位プログラム上の選択科目として位置付けられている。今後、免許教科の専門性を担保できるように学位プログラム上での履修方法の工夫を検討いただきたい。

## 3. 教育実習の取組状況

- 多くは母校実習を行っているが、教育委員会と連携し、ほぼ全ての教育実習先に担当指導教員が巡回指導を行うなど、丁寧な教育実習指導が行われている状況が確認された。引き続き、地元教育委員会・学校と連携を進め、巡回指導を含め、適切な教育実習指導に努めていただきたい。

## 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 教職課程専門委員会、教育実習等専門委員会、学校インターンシップ専門委員会等を組織し、きめ細かな教職指導に取り組んでいる姿勢は評価できる。

## 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 教育委員会と協定を締結して「学校インターンシップ」を実施するなど、教育現場を経験できる機会に学生を積極的に参加させている姿勢は評価できる。教職に関心のある学生が、早い段階から学校におけるボランティア活動等を通じて、教職の魅力や教員としての適性等を把握した上で、教員免許状の取得を目指すことは重要であることから、今後も教職課程履修者に積極的に履修を推奨するなど、地元の教育委員会・学校との連携・協働に努めていただきたい。

## 6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 図書については、十分に整備されているとは言い難いため、教科専門、教育学関連、特別支援教育に関する図書等の教職関連図書について、配架状況を再度確認し、今後充実に努めていただきたい。

## 7. その他特記事項

特になし